

第2回 退院調整・地域連携打ち合わせ会 報告書

資料2

H29.1.25

日時	平成 28 年 12 月 11 日(日) 9:30~12:30
場所	高松市医師会館 5階ホール
参加者	<p>128名(詳細はアンケート結果参照)</p> <p>【内訳】</p> <p>○医師 15人 ○歯科医師 2人 ○薬剤師 11人 ○保健師・助産師・看護師 14人 ○訪問看護師 2人 ○歯科衛生士 4人 ○理学療法士 3人 ○作業療法士 4人 ○言語聴覚士 3人 ○ケアマネジャー 23人 ○社会福祉士 10人 ○精神保健福祉士 1人 ○事務 1人 ○不明 2人 等</p>
内容	<p>1 オリエンテーション</p> <p>松本委員から、高松市在宅医療連携会議や今回の打ち合わせ会で話し合う内容について説明がある。</p> <p>2 事例検討</p> <p>(1) 検討メンバー</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆司会/医師:三宅委員、◆事例提供:徳重副センター長(地域包括支援センター) ◆認知症専門医:中村委員 ◆ケアマネジャー:辻委員 ◆訪問看護師:安部 美枝子氏(香川県看護協会訪問看護ステーションこくぶ所長) ◆地域包括支援センター:合田係長(HHC) <p>(2) 検討内容</p> <p>地域包括支援センター徳重副センター長から事例紹介があり、参加者同士で検討していただく。その後、検討メンバーにより様々な方向から、課題解決に向けた話し合いを進めた。</p> <p>3 講演</p> <p>厚生労働省健康局総務課長補佐 野村 晋氏から「今の地域包括ケア、これからの地域包括ケア、そして高松市の地域包括ケアを考える」との演題で講演がある。</p> <p>主な内容は、次のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高松市の病床利用率は、全国、また近隣の県庁所在地と比較して低く抑えられている。これは、在院日数が全国でも有数の短さであるためである。 ・ただ、在宅療養支援診療所及び訪問看護ステーションが人口の割合に比べると、まだまだ足りていないので、在宅医療の面から見た患者の受け皿は十分ではないことから、退院した患者は主に通院を選択する(全国的にも同様)。 ・今後も認知症高齢者、がん患者は増加するため、在宅医療、入院、施設入所等様々な選択肢を用意することが必要であるが、医療・介護・福祉分野に就業する人数が限られているため、それぞれをバランス良く整備し、過不足がないように留意する必要がある。 ・在宅医療・介護連携が進んでいる柏市の例を取り上げ、主治医・副主治医制の説明や、柏地域医療連携センターの業務について説明がある。 ・在宅医療というと、高齢者が取り上げられがちであるが、「子ども」も在宅医療を受けることが多くある。そのため、地域包括ケアを考える際には、社会保障の枠を超え、制度横断的な体制の構築(子ども食堂と高齢者が関わる等)が必要ではないかと考えている。

